

I 研究主題

社会に変革を起こす子どもの育成（1年次）

～情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラムマネジメント～

I 「社会に変革を起こす子ども」について

・社会：

児童が生きる現在の「社会」及び、これからの複雑で不確かな「社会」。

本研究は、児童が生きる「社会」の一つである小学校教育の中核に位置付く授業に焦点を当てる。

・変革を起こす：

問題解決的な学習において、一人や少人数、学級全体といった多様な規模の他者が納得した上で、他者の考えを改善すること。

これから先に訪れる今よりもさらに複雑で不確かな時代、その変化に対応するだけでは時代の波に流されてしまい、自分らしく生きていくことはできない。OECDは「2030に向けた学習の枠組み」の中で、複雑で不確かな時代を自分らしく生きていくためには、「変革を起こす力のあるコンピテンシー」が求められており、そのコンピテンシーを身に付けるためには、新たな価値を創造する力や、対立やジレンマを克服する力、責任ある行動をとる力が必要であると示している。OECDでは、このコンピテンシーを中等教育以降に全面展開することを想定している。小学校学習指導要領においては、児童が資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」が相互に関係し合うことを活性化するような授業を目指している。そして、そのような授業を繰り返すことで育成を目指す資質・能力について“児童一人一人に、社会の変化に受け身で対応するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、自らの可能性を発揮し多様な他者と協働しながら、よりよい社会と幸福な人生を切り拓き、未来の作り手となるために必要な力を育むことに効果的につながっていくようにすることを目指す”と示されている。つまり、「変革を起こす力のあるコンピテンシー」を身に付けることと、学習指導要領で目指す資質・能力を育成することとは深く関係している。

さらに、「変革を起こす力のあるコンピテンシー」は、本校の学校教育目標の達成とも深く関係している。本校のグランドデザインの中で、学校教育目標に照らして目指す児童像を明記している。本校で目指すこれらの児童の姿は、新たな価値を作り出すことや、相手の立場を考えて接すること、心身ともに元気でたくましいことなど、OECDが示した「変革を起こす力のあるコンピテンシー」に必要とされる力と重なる部分が多くある。そのため、児童が授業において、「変革を起こす力のあるコンピテンシー」を育成できるような学習を、単元・題材等や学年を超えて積み重ねることにより、本校が目指す「つよく たく だし く かしこい子」を育成できると考えた。

以上のことから、本研究では、複雑で不確かな未来において児童が自分らしく生きるためには、現在の社会の中でも、自分なりに「社会に変革を起こす」ことが必要であると考えた。そこで、児童が生きる現在の社会の中心にある小学校教育を一つの「社会」として捉え、その中で「変革を起こす子ども」の姿を明らかにしようと考えた。

小学校教育の中核には授業がある。授業の中で児童は他者と協働的に問題解決を行っている。児童は自分の考えを伝えることで、他者の考えが改善される経験をしている。このような経験は、自分自身を肯定する経験であり、自分らしく生きること自信をもてる経験である。このことから、問題解決的な学習において「社会に変革を起こす」とは、小学校教育の中核である授業という「社会」の中で、一人や少人数、学級全体といった多様な規模の他者の考えを改善することであると考えた。また、授業の中で児童は自分とは同様の、もしくは、異なる考えや考えの根拠をもつ他者と学習を行っており、その中において、自分の考えだけを大切にしながら考えを伝えるだけでは、「社会に変革を起こす子ども」とは言えない。本研究における「社会に変革を起こす子ども」は自分の考えを伝え、伝えられた他者が納得した上で、おのずと考えを改善するよう働きかけることができる。そのためには、伝える立場の児童は他者の思いを考慮することが必要であるとともに、伝えられる立場の他者も伝える立場の思いを考慮し、その考えを受け取ることが大切である。つまり、児童同士が互いの考えに影響を与えることを繰り返し、まるで児童たちが響き合うような姿が現れることが必要である。以上のことから、実践を通して本研究を検証する際には、「社会に変革を起こす子ども」として捉えた、考えを伝える立場の児童の姿はもちろん、伝えられる立場の他者の姿にも着目し、児童同士の関わりを相対的に捉え、本研究の妥当性を判断することとする。

なお、本研究では、児童が単元・題材等における問題解決的な学習の中で、対象に対して見方・考え方を働かせ、対象から得た情報を基に他者と対話をしながら、問いに対して納得する内容に近づく考えを導こうとする学びを目指す。これは学習指導要領が目指す主体的・対話的で深い学びであるといえる。

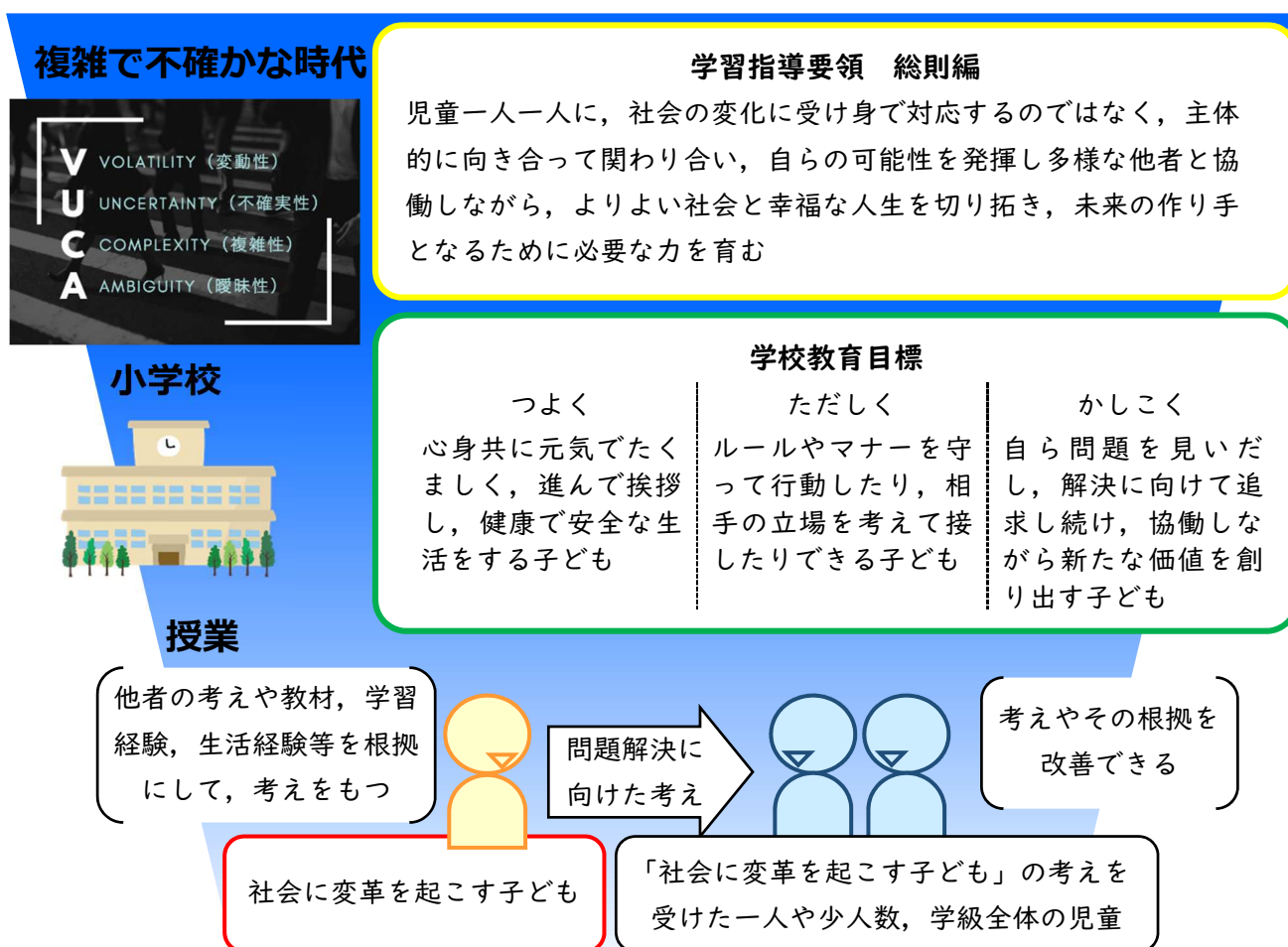


図1 「社会に変革を起こす子ども」と学校教育目標、学習指導要領の各段階で目指す姿の関係

2 研究副主題

＜情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラム・マネジメント＞

本校のこれまでの実践の中で、問題解決に向けた考えを伝えた際に、他者を納得させることができた児童、つまり、本研究における「社会に変革を起こす子ども」に相当する児童からは、次のような思考や姿を見取ることができた。

- ・他者の考えや行為、テキストや資料などから問題解決に必要な情報を収集できる。
- ・収集した情報を問題解決のための必要性に照らしたり、情報の内容を読み取ったりするなどの、情報の吟味ができる。
- ・問題解決に向けた考えをもつために、吟味した情報同士の共通点や相違点を見いだしたり、問題解決に向けた考えをもつきっかけを得たりするなどの情報の関連付けができる。
- ・問題解決に向けた考えとして、結び付けた情報を基に解釈をしたり、共通点や相違点を活用したりするなどの情報の処理、表現ができる。

以上の児童の思考や姿から、本研究における「社会に変革を起こす子ども」は、情報活用に長けているといえる。そこで本研究では、「社会に変革を起こす子ども」の姿が授業の様々な場面で現れるように、情報活用に視点を当てる。具体的には、情報活用の視点から行う授業改善を中心に位置付けたカリキュラム・マネジメントを提案する。その際、学校教育目標との関連から考える「情報活用の視点から行うカリキュラム・マネジメント（全体研究）」と「情報活用の視点を基にしたICT活用による授業改善（各教科等研究）」の二つの側面から研究を進めることとする。

3 研究内容

（1）情報活用の視点から行うカリキュラム・マネジメント（全体研究）

全体研究では、多様な情報を活用するという視点から、各教科等の単元配列や、行事、生活場面等を見直すというカリキュラム・マネジメントを提案する。教師は授業実践前に、カリキュラムシート（図3）や年間指導計画から、児童が活用する情報を類型化し、効果的に情報を活用できるように単元・題材等構想を行う。ここで示しているカリキュラムシートとは、本校における学校行事や各教科等の年間指導計画等を月ごとに時系列でまとめ、一覧にしたものである。さらに、授業実践後には、児童が活用した情報を分析し問題解決を行うために必要であった情報を見直し、次年度に向けたカリキュラムシートや年間指導計画を修正する。また、「社会に変革を起こす子どもの姿」や目指す授業像を教師と児童で共有するために、月に一度「共にわかろう」の振り返り（図4）を実施する。これらのことを行うことにより、教科等の系統や、他教科や行事等の関連を深め、授業改善を中核としたカリキュラム・マネジメントを行うことができる。なお、カリキュラム・マネジメントを行う上で、問題解決的な学習において、児童が用いる情報を類型化する観点を図2のように位置付けた。なお、PDCAサイクルの各過程における具体的な取組（図5）は以下のとおりである。

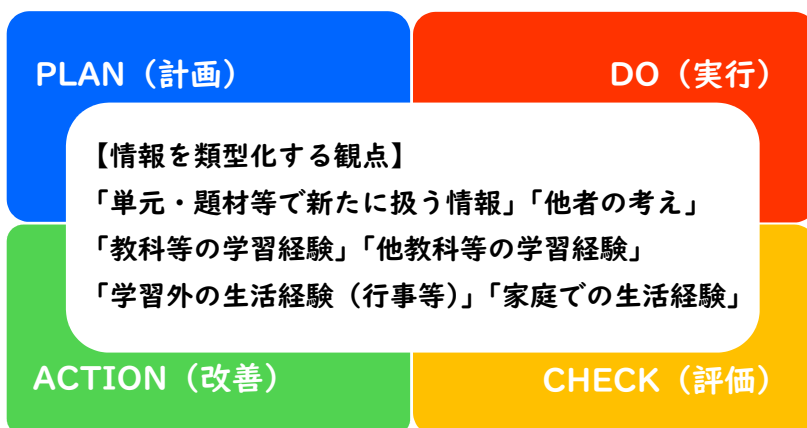


図2 カリキュラム・マネジメントのための情報を類型化する観点

令和2年度

第6学年 単元等配列一覧シート

月	週	行事	学級活動	道徳	総合	国語	算数	社会	理科	音楽	図工	体育	家庭	英語
4月	2	新形式・休業式 入学式	休を工夫しよう(1)	農と職生として(1)よりよい学校生活、集団生活の充実(2)	「今年のくすの木は何例をしようか」	1 言葉の準備活動(「つないで、つないで、つないで」のお話)	1 (言葉の学習)「漢字の形と音・意味」	2 対称な図形	15 日本国憲法とわたしたちのくらし	8 植物の養分と水の通り道	11 歌声をひびかせて心をなげよう	5 北風の来た風景(観察)	1 休づくり運動(1) (体ほぐし・体力を高める動き)	3 友達についての「True Or False」クイズ大会しよう
	3	金曜学力テスト	6年生になって(3)	「あがりやとうるや」を言いたい(1)～(10-1)まで		2 詩を詠もう(「春の河川小景興懐」)	1 (言葉の学習)「春のいのち」	2				石山三十六景(絵に学ぶ)	13	
	4	1年生を迎える会	委員会活動を見よう(1)			3 感想をまとめよう(「春の道」)	4							
	5	学習参観 運動会	学級活動の計画をつくら(1)	長所を伸ばすために(A～個性の伸ばし)		4 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	8 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
	5	交通安全教室	学級目標のよなクラスをつくら(1)	広い心(1)(10-1相互理解、寛容(2))		5 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	8 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
5月	2	避難訓練(火災)	1年生に給食や清掃の仕方を教える(1)	職員の(1)～(10-1)まで		6 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	8 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
	3		危険から身を守ろう(1)			7 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	7 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
	4	リレー大会	「ともに分る」クラスしよう(1)	働くということ(10-1)～(10-1)まで		8 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	8 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
	5			夢の実現に向けて(10-1)～(10-1)まで		9 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	9 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
	5			夢の実現に向けて(10-1)～(10-1)まで		10 友達と話をきこう(「聞いて、考えを深め」)	10 (言葉の学習)「漢字の広場」	1						
6月	1	プール開き	学級コンソーサートしよう(1)	2		6 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2	公開研究会	農と職生としての役割を果たそう(2)	3		7 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	かみゆいけの環境学習	互いに高めあえる友達になろう(1)	4		8 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4					9 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4					10 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
7月	1	自由参観日				11 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2		夏休みの計画をつくら(2)	3		12 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	1学期終業式 水泳記録会				13 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	8月	2学期始業式	2学期のめあてをつくら(3)	4		14 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1	教育実習開始 避難訓練(地震)	休を工夫しよう(1)	1		15 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
9月	2	前期クレーン作戦	委員会組織をつくら(1)	1		16 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3		服を着て歩いてみよう(2)	2		17 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4		学級活動の計画をつくら(1)	1		18 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	5	運動会	運動会に向けて(1)	1		19 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1	教育実習終了	教生の先生とお祈り会しよう(1)	2		20 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
10月	2		見方グループの活動で工夫しよう(1)	1		21 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	市陸上記録会	元気な秋に必要な食料(2) ※ 学校栄養士とのIT	1		22 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4	市立に開く講習会	自分の将来に向けて(2)	1		23 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	5	県陸上記録会	地球を守るには(10-1)～(10-1)まで	1		24 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1		学級文化祭しよう(1)	2		25 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
11月	2	修学旅行				26 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	避難訓練(不審者)				27 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4	クラブ発表会				28 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	5	日域学習参観 音楽・演劇鑑賞会				29 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1	人権週間	冬休みの計画をつくら(3)	1		30 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
12月	2	個人参観				31 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3					32 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4	2学期終業式				33 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2	3学期始業式	休を工夫しよう(1)	1		34 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3		卒業までのめあてをつくら(3)	1		35 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
1月	4		新6年生に引き継ぐこと(3)	1		36 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	5	なわとび大会				37 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1		感謝の集会に向けて(1)	1		38 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2		中学校の生活(3)	1		39 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	中学校体験入学				40 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
2月	4	自由参観日				41 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	5					42 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1	6年生を送る会	お別れ会しよう(1)	2		43 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2					44 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3	卒業式				45 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
3月	4					46 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	1					47 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	2					48 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	3					49 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						
	4					50 短歌に親しむ(「たのしみは」)	3 (言葉の学習)「漢字の広場」	2						

図3 本校 令和2年度 第6学年 カリキュラムシート



とも 「共にわかれよう」 ふりかえり

じゅぎょう さい じぶん ようす
授業の際の自分の様子について、チェックしてみましょう

◎：よくできた
○：できた
△：がんばりたい

No.	チェック項目	4月	5月	6月	7月
1	すすんで手をあげて発言していますか？				
2	「…です。」「…と思います。」など、最後までしっかり話していますか？				
3	まわりの友達に向けて聞こえる声で発表していますか？				
4	友達の見解を、最後まで静かに聞いていますか？				
5	あいづちをうったりハンドサインを出したりしながら、友達の考えを聞いていますか？				
6	自分の考えと友達の考えの同じところや違うところを見つけていますか？				
7	友達とのやりとりを、たくさん行っていますか？				
8	わからないときに、わからないと素直に言っていますか？				
9	友達に自分の考えを伝えて、納得してもらっていますか？				
10	友達の考えを参考にして、自分の考えや動き、作品などをよりよくしていますか？				

図4 「共にわかれよう」ふりかえりシート

※「共にわかれよう」振り返りシートについて

本校の授業理念を教師だけでなく、児童も意識するための項目を示したシートです。このシートを活用することで、児童が全ての教科等において、この授業理念を意識することができる。

本研究で目指す児童の姿に特化した項目は「9」「10」の項目です。この項目については、他の単元・題材等との結び付きが強い、単元・題材等の実施前後で行い、比較することで、本研究の具体的な検証を行うことができる。

【情報活用の視点から行うカリキュラムマネジメント チェックシート】

P D C Aサイクルの各過程において、次の項目をチェックしましょう。カリキュラム・マネジメントは全教員で行います。ただし、具体的な取組は、教科等部が作成した年間指導計画を基に、学年部が行います。

PDCA過程	内容 (○)
実施時期	チェック項目 (□)
PLAN (計画)	○カリキュラムシートの作成 ○合科・関連の図れる単元・題材等に矢印を記述 ○「社会に変革を起こす子ども」の育成を目指した授業づくり（単元・題材等で用いる情報の分析）及び、行事や生活場面の計画
年度初め・ 各学期始め	□ 情報を類型化する観点を確認する。 「単元・題材等で新たに扱う情報」「他者の考え」 「教科等の学習経験」「他教科等の学習経験」 「学習外の生活経験（行事等）」「家庭での生活経験」 □ 単元・題材等や生活、行事における情報を類型化する各観点に関わる内容を抽出する。 □ 情報を類型化する観点を基に、単元・題材等や生活、行事を結び付ける。 □ 授業づくりを行う際に、結び付けた単元・題材等や生活、行事の情報を生かしている。
DO (実行)	○「社会に変革を起こす子ども」の育成を目指した授業実践及び、行事や生活場面における実践
常時	□ 「社会に変革を起こす子ども」の姿の価値付けを子どもとしている。 □ 授業の中で「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れている。 □ 「社会に変革を起こす子ども」の姿が現れるための学習指導の工夫は効果的である。 □ 「社会に変革を起こす子ども」を見取り、称賛している。
CHECK (評価)	○カリキュラムシート及び単元・題材等の指導評価の計画の見直し ○「社会に変革を起こす子ども」の育成を目指した授業実践及び、行事や生活場面の振り返り
実践直後	□ 「社会に変革を起こす子ども」の姿に照らして、児童も教師も学習を振り返る。 □ 情報を類型化する観点を確認する。 □ 単元・題材等や生活、行事において、抽出した情報を類型化する各観点に関わる内容の整合を判断する。 □ 情報を類型化する各観点を基に、単元・題材等や生活、行事の結び付きの強さを判断する。 □ 「社会に変革を起こす子ども」の姿の有無を事実として、学習指導の工夫を検証する。
ACTION (改善)	○カリキュラムシート及び単元・題材等の指導と評価の計画の修正（行事や生活場面を含む）
年度末・ 各学期末	□ 情報を類型化する観点を基に、結び付きの強さによって単元・題材等や生活、行事を位置付けている。 □ 学習指導の工夫について検証したことを基に、学習指導の工夫を修正したり、新たに考案したりする。

図5 情報活用の視点から行うカリキュラムマネジメント チェックシート

(2) 情報活用の視点を基にしたICT活用による授業改善（各教科等研究）

各教科等部では、単元・題材等の構想や授業実践を行う中で、多様な情報を活用するという視点を基に「社会に変革を起こす子ども」を目指した学習指導の工夫を行う。学習指導の工夫は、情報活用に長けている児童の思考や姿を基に、情報活用の視点から、【情報の収集】【情報の吟味】【情報の関連付け】【情報の処理、表現】という局面において設定する。

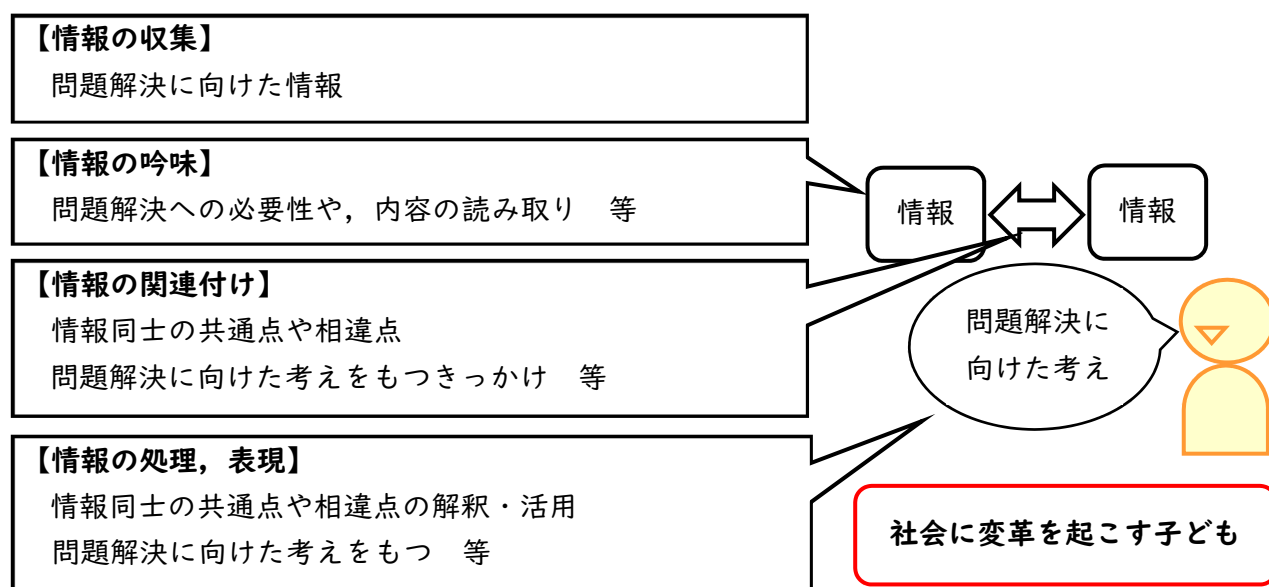


図6 「社会に変革を起こす子ども」の思考や姿を基にした、情報活用の四つの局面

各教科等部は、問題解決的な学習において各教科等で捉えた「社会を変革する子ども」の姿が現れるために重視すべき局面を位置付け、その局面において有効なICT活用を提案する。なお、ICT活用の学習指導の工夫には、発達段階や学習内容に応じて、教師が主導で行うものと、児童が主体で行うもののバランスを考慮し、設定することが必要である。

教 師	児童
・資料の提示 ・児童の活動の様子や作品の紹介 ・教師の模範	・収集をした情報の共有 ・外部講師との交流 ・考えや動き、作品等の前後の比較 ・資料の収集 ・観察や記録 ・画像や動画の制作 ・協働制作 ・シミュレーション ・問題解決に向けた考えの整理・検討

図7 ICT活用の学習指導の工夫